

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分		専門分野		授業の方法		講義	
科 目 名		音声障害		必修/選択の別		必修		授業時数(単位数)		30 (1) 時間(単位)	
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限		前期 6,7限他		教室名		402	
担 当 教 員		小坂 将史		実務経験とその関連資格		社会医療法人弘道会内の病院や老人保健施設等にて、言語聴覚士としてリハビリテーション業務に従事していた。					
《授業科目における学習内容》											
下記について学習する。①発声器官の解剖の復習、②発声のメカニズム、③音声調節のメカニズム、④嗄声(声がすれ)の病態。⑤音声障害の検査法、⑥音声障害の個々の疾患の特徴、⑦音声障害の治療法、⑧音声訓練の作用のメカニズム、⑨無喉頭者の代用音声の個々の方法の特徴											
《成績評価の方法と基準》											
定期試験100%											
《使用教材(教科書)及び参考図書》											
テキスト:発声発語障害学 第3版(医学書院)											
《授業外における学習方法》											
事後学習として、授業内で実施される資料や講義ノート、テキストを適宜見直し、知識の定着に努めて下さい。											
《履修に当たっての留意点》											
特に発声・喉頭閉鎖調節のメカニズム、嗄声(声がすれ)の病態、音声訓練の効果のメカニズムについて学んでください。											
授業の方法		内 容					使用教材		授業以外での準備学習の具体的な内容		
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	発声器官の構造(骨・軟骨、筋肉、支配神経、内腔)を説明できる。				テキスト	予習として、解剖学のテキストの相当範囲を読んでおく			
		各コマにおける授業予定	発声器官の解剖を学習する。								
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	発声器官、特に喉頭が関与する運動について説明できる。発声のメカニズムについて説明できる。				テキスト	予習として、呼吸・発声・発語の構造・機能・病態のテキストの相当範囲を読んでおく			
		各コマにおける授業予定	発声器官の運動、発声および発声調節のメカニズムを学習する。								
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	声の大きさ・高さ・音色・長さの調節のメカニズムについて説明できる。				テキスト	復習時に、テキストの相当範囲を読んでおく			
		各コマにおける授業予定	発声の調節のメカニズムを学習する。								
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	正常の音声と嗄声の特徴、嗄声発声のメカニズムについて説明できる。				テキスト	復習時に、テキストの相当範囲を読んでおく			
		各コマにおける授業予定	小テスト、嗄声・音声障害の病態を学習する。								
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	喉頭の観察法、聴覚心理学的検査、質問紙法について説明できる。				テキスト	復習時に、テキストの相当範囲を読んでおく			
		各コマにおける授業予定	音声障害の検査法1を学習する。								

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	音響分析について説明できる。	テキスト	復習時に、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	音声障害の検査法2を学習する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	空気力学的検査、声帯振動の分析法について説明できる。	テキスト	復習時に、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	音声障害の検査法3を学習する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	器質性音声障害のそれぞれの疾患の特徴について説明できる。	テキスト	復習時に、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	小テスト、器質性音声障害1を学習する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	器質性音声障害のそれぞれの疾患の特徴について説明できる。	テキスト	復習時に、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	器質性音声障害2を学習する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経学的音声障害のそれぞれの疾患の特徴について説明できる。	テキスト	復習時に、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	神経学的音声障害を学習する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	機能性音声障害の分類法、病態について説明できる。	テキスト	復習時に、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	機能性音声障害を学習する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害に対して使用される薬物、手術手技について説明できる。	テキスト	復習時に、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	小テスト、音声治療の薬物療法・手術療法を学習する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	声の衛生指導、音声訓練の個々の手技の作用のメカニズムについて説明できる。	テキスト	復習時に、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	音声治療1を学習する。		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	音声訓練手技を実践してみて、手技の効果を説明できる。		
		各コマにおける授業予定	音声治療2を学習する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	喉頭全摘術後の代用音声の方法とそれぞれの特徴について説明できる。	テキスト	復習時に、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	無喉頭者の代用音声を学習する。		